歩く文学 文学碑、記念館、資料館 八幡西区

旧高崎家住宅（伊馬春部生家）

北九州市指定文化財

伊馬春部（1908～1984）

伊馬春部は、新宿ムーラン・ルージュの創立期の座付き作者を経て、ラジオ、テレビ、舞台などの脚本家となった。戦後のラジオドラマ「向う三軒両隣り」「本日は晴天なり」は、すさんだ世相にさわやかな笑いとペーソスを送り続け、放送作家の草分け的存在の一人として知られている。

旧高崎家住宅は、高崎四郎八が、天保6年（1835）に建てたもので、江戸時代末期の代表的な宿場建築として貴重である。伊馬春部は、商家カネタマの五代目としてこの家に生まれた。

Memo